

沖縄などで見られる魔除けの意味もあるシーサーを考えてつくってみましょう

シーサーをつくらう

作品づくりのオススメポイント

- 彫塑ねんどは自然乾燥させるだけで、焼き物のような風合いに仕上がります。
- 乾燥後、少し水をつけ、軍手などで磨くと金属のような光沢になります。
- 乾燥後、彫刻刀や紙やすりで簡単に加工でき、絵の具で発色よく着色できます。

用意するもの



- 彫塑ねんど
- 粘土板
- ヘラ
- おはじき
- ビー玉



1 粘土の固まりを山の形に整えていきます。

POINT 袋に小指の先ほど補修用に粘土を取っておきましょう。



2 粘土の固まりを伸ばし胴と頭にしします。

POINT 固まりから粘土を引っぱり出すようにしてつくっていきます。



3 目の部分にビー玉を埋め込み頭をつくりします。

POINT ビー玉は中までしっかり埋め込んで外れないようにします。



4 たてがみ、しっぽなどの細かい部分をつくりします。

POINT 部品が外れないように、しっかり指先で粘土をならします。



5 おはじきを埋め込み、ヘラなどで仕上げ乾燥させます。

POINT 乾燥後、補修する場合は補修箇所に水をつけ粘土を刷り込みます。



乾燥後 水彩絵の具などで発色良く着色する事ができます。

POINT 粘土の色をいかした配色を心がけましょう。



乾燥後 水をつけ、軍手などで磨くと金属のような光沢に仕上がります。

POINT 磨く時に壊れないようにしっかりとした作品をつくりましょう。



乾燥後 彫刻刀で削り加工する事ができます。

POINT 失敗した場合、残しておいた補修用の粘土で埋めましょう。

